

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900047
法人名	社会福祉法人鷹羽会
事業所名	グループホームひまわり苑
所在地	福岡県田川郡大任町大字大行事519-1
自己評価作成日	平成27年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成27年11月20日	評価結果確定日	平成28年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周りには田園風景が広がり、静かで癒される環境です。敷地や建物もゆったりと取られ、大きな窓と吹き抜けの天井から光が十分入り、明るく開放感があります。床材は転倒してもケガがないようクッション素材を使用し安全にも配慮しています。隣近所の方との交流もあり、近所の方から野菜をいただいたり、敷地の草刈りを民生委員さんがしてくださったりと、苑のことをいつも気にかけていただいているようです。近くには人がたくさん訪れる道の駅があり、四季の花々を見にでかけたり、食事にでかけたりと活用しています。今年の誕生日には外出や買い物、食事など一人一人の希望を取り入れて、個々の楽しみを見つける工夫をしました。環境に恵まれたこの地域でその人らしい生活を送れるよう支援していきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

英彦山川が流れる田園風景の中に事業所は位置し、日常の中で地域の方々と自然体での交流を重ねている。また、母体法人との連携は、職員育成やノウハウの共有、盛況に開催されるイベント等にて発揮されている。今年度は個別支援に重点的に取り組み、夫婦で喫茶店に出かける、地域の馴染みの商店街で洋服を購入する等、目的のある外出支援が行われている。1ユニット9名の方との暮らしがりは、距離感の近い、家庭的な雰囲気があり、普段着にまま過ごせるような安心感がある。その中で、個人の尊重や自尊心の回復等、本人本位に基づく関わりを念頭に置き、専門職としての研鑽を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)		1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という理念とともに「思いやり」や昨日より少しでも進歩しようという思いから「チェンジ」も付け加え入居者さんと一緒に声に出している。	社会福祉法人鷹羽会としての理念とともに、職員の意見を取り入れながら「思いやり」と「チェンジ」を加え、入居者の方々と共に唱和することで新たな一日が始まる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所との交流を心がけ、散歩や外出時のあいさつを忘れないようにしている。畑の野菜をいただいたり、差し入れをいただいたりすることもある。またリハビリ体操や避難訓練時には参加を呼びかけている。	町内会に加入し、日常的な挨拶等、自然体での交流を重ねている。また、法人全体の敬老バーベキューには、家族や地域の方々等、二百名を超える参加を得て、生協に開催されている。近所の方々より自宅で採れた野菜を頂くこともあり、民生委員の方も時々様子を見に来て下さる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの問い合わせ、見学希望があればいつでも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議では、苑の状況報告をし、家族、民生委員、行政、地域包括からいろいろな意見が出され次回にはなるべく回答できるようにしている。	運営推進会議は、家族、民生委員、町役場担当者、地域包括支援センター職員等の出席を得て、2ヶ月に1回開催されている。情報共有や意見交換を行い、出された意見は職員と共に検討しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大任町役場の担当者にも運営推進会議に参加していただき、施設の現状を報告し、情報提供やアドバイスをいただいている。	運営推進会議には、大任町役場担当者及び地域包括支援センター職員の出席を得ている。また、困難事例やリスクマネジメント等で助言を得ることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室に鍵はなく、日中玄関を施錠することはない。基本的には施設内では自由に過ごしていただいている。どういことが拘束になるのか施設の勉強会でも取り上げている。	日中玄関の施錠は行われていない。職員会議や個別カンファレンスにおいて、常に身体拘束をしないケアの実践に向けた視点を確保し、個別のより良いケアの在り方について意見を出し合い検討を行っている。言葉等の見えない抑制についても、意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及びリーダー職員が虐待防止の研修を受講し、どういことが虐待に当たるのかを再認識し、それを他の職員に伝える。また、関連職員全体で考える機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護の研修を受け、職員に伝える。成年後見制度について資料を作り職員が読めるようにしている。	権利擁護に関する制度について、入居の際に本人、家族への説明を行っている。現在、制度を活用している事例はないが、外部研修に参加し内部での伝達を行い意識を高めるとともに資料を閲覧可能としている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において契約書、重要事項について説明し、確認と同意をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、要望は日々の生活の中で管理者や職員が聴いたりくみ取ったりしている。家族からの意見、要望は面会時や運営推進会議時に出していただき検討している。	職員は、利用者の気持ちや意見を日々の生活の中で汲み取り、家族の意見は、家族会や連絡協議会、面会時等の話し合いで受け止め、問題点を冷静に把握、日ごろの運営に活かそうと努力している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送りの時間などに職員の意見や提案を聴き、全員で検討し反映できるよう努めている。	職員会議では、備品の整備や季節ごとの飾りつけ等、職員が主体的に関わり情報共有と検討を行っている。日常の中でも、意見の言いやすい関係づくりへの配慮がうかがえ、風通しの良い職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は研修や資格取得など職員の質の向上を促し、職員の努力や実績を認めている。定期的に食事会やボーリング大会などを設けストレスの多い職種に理解を示し、発散の機会を提供してくれる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用に当たっては年齢や性別に関係なく本人の意欲を重視している。外部研修を促進し、学びたい意欲のある者を応援し援助している。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。定年後の再雇用についても、個別の配慮に努めている。法人としての積極的なサポートもあり、法人内や地域の関係者ともテーマを決めて研修を行う等、常に質の確保への研鑽を重ねるよう取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社会福祉協議会や市町村などからの人権研修には積極的に参加を勧めている。また新聞記事などからの新しい情報も取り入れるようにしている。	地域で開催される人権研修会に参加している。無意識のうちに虐待や拘束につながってしまうことや、支援と支配との違い等、常に振り返りながら意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の内部研修や社会福祉協議会などからの研修への参加、スキルアップのための研修資格取得を応援し受講を勧めている。研修日は就業扱いとしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大任町ケアマネージャー連絡会、田川地区介護サービス事業所協議会主催の研修会参加や同じ法人内の他施設の職員との勉強会を定期的に開催している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なんでも言える関係を築くことが大切であり、そのためになじみの関係が作れるよう日頃の会話や接し方に注意している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にその方の情報をなるべくたくさん聞き出すよう努めている。その中で家族の要望や不安に思うことも聞き出せるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や入居者からの会話から情報収集し、得たことから、今一番してもらいたいことが何かをつかむよう努めている。。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員という立場ではあるが、それ以上に長時間生活を共にしている家族のような気持ちで接している。しかしある程度の節度は持ち、行き過ぎのない関係を保っていきたい。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の一番の支援者は家族だが、職員も気持ちは家族同様であり家族とともに支援していく気持ちを常に持っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の主治医を継続し安心感を持ってもらう。また行きつけのお店やなじみの方との交流が継続できるよう支援している。	これまでのかかりつけ医の継続や、いつも利用していた店での食事や買い物等を支援している。誕生日には、馴染みの場所や人との関係継続に向けた個別支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもる方はおられず、ほとんどの方は日中リビングで過ごされる。多少のいさかいはあるがそれは自宅にいてもあり得ことで、自然な交流が日常的に起きている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方でも職員が面会に立ち寄り、今でも交流が続いている家族もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年の誕生日はそれぞれの希望をきき、ご主人と喫茶店でお茶をしたい、商店街で洋服を買いたい、手作りケーキを食べたい、ドレスを着て写真を撮りたい、などのそれぞれの思いを実現している。	担当職員を中心に、生活歴や趣味、拘り等の把握に努め、職員間での共有に努めている。馴染みの場所や関係性、嗜好等に基づき、個別支援に積極的に取り組み、思いや意向の実現に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人に担当の職員をつけ、日常会話の中からその方の生活歴を聞き出しまとめている。夜勤時個人の記録を読んでその人なりをつかむようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックでその日の体調を把握し、日常会話によって心の状態を察するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で担当者が一人一人のその月の状態(健康面や生活面)を報告し、家族の面会時には状況報告をし、要望や意見がないか尋ねている。	職員会議の中で、担当職員より、本人、家族の意向、主治医や訪問看護からの情報等を報告し、カンファレンスを行っている。役割づくり等のできることや楽しみごとを機能維持や活用に結び付けながら、個別性ある介護計画が作成されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの記録は細かくチェックしているが、気づきや工夫までは記録されていないことがある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活の中で発せられる何気ない言葉や様子から、何を望んでおられるのかを感じ取り、実現できるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の施設や自然を活用し、自宅にいるような感覚で過ごしていただきながら、自宅ではできない体験もしていただけるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自宅におられたときのかかりつけ医をそのまま継続してもらっている。かかりつけ医から得る情報もたくさんあり助かっている。	入居時に、本人、家族の意向を確認し、これまでのかかりつけ医への受診を支援している。職員が同行する機会が多く、主治医からの情報や指示を訪問看護師や家族と共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医への受診内容を週1回の訪問看護時に伝え、アドバイスを得ている。体調の悪くなったときは受診前に相談したり、24時間体制で夜間でも訪問してもらえるので助かっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はできるだけ職員が様子を見に行き、病院関係者から話をきいたりアドバイスをもらっている。退院指導時は家族とともに医療面や食事面の説明を受け、今後の苑での生活に生かしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明し、理解を得ている。施設のできることでできないことをきちんと説明するよう努めている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について指針をもとに説明を行うとともに、状況の変化に応じて、その都度話し合いを重ねながら、方針の共有に努めている。今後想定される終末期及び看取りの支援について、研修を継続している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が実施する救命救急講習への受講を勧めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、通報、誘導、消火の訓練を受けている。またご近所の方の協力が得られるよう避難訓練に参加していただけるようお願いしている。	消防署指導の下、町内会長や民生委員の協力を得て、年2回、避難訓練を実施している。また、水害時を想定し、避難方法についても検討を行っている。備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人一人を尊重し、プライバシーを損ねないよう居室への出入りには声をかけ、言葉遣いにも配慮するよう努めている。	呼びかけや入室時の確認等、馴れ合いとならないよう意識を高めながら、職員間で確認や振り返りを行っている。一人ひとりの理解に努め、自己決定や生活習慣・ペースの尊重に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話の中でさりげなく希望や思いを聞きとり、実現できるよう配慮している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方の中で、みんなで揃ってできること、一人一人のペースであることをわけて支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や病院受診時には職員と一緒にその日のお天気や気分に合わせて洋服を選んだりお化粧していただく。買い物時には気に入った洋服などを購入できるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や季節に合った献立を取り入れ、なるべく手作りの家庭の味になるよう工夫している。鉄板で焼くときは一緒に手伝っていただきアツアツを食べてもらっている。	調理は職員が順番で担当し、家族からは「顔色が良くなった」「髪が黒くなった」等の声も聞かれ、好評を得ている。買い物や食事の準備、後片付けに力を発揮してもらい、暮らしに営みの継続を支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに合った食事量を考え、食べやすい大きさに切って提供している。また、毎日の水分量、食事量を記録し十分な量が取れているかチェックしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で口腔ケアをしていただくが最後は必ず職員がチェックし仕上げをしている。訪問歯科の指導により口腔スポンジや舌ブラシを使ったりしており、職員も指導を受けながら取り組んでいる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を細かくつけ、状況に応じて声かけ、誘導、見守り、介助を行なっている。	個別の排泄状況の把握に努め、カンファレンス等にて協議しながら、日中はトイレでの排泄を基本とし、パターンやサインに応じた個別の支援を行っている。できる限り自然排便に近づけるよう、飲食物の工夫や運動、マッサージ等を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に気を配り1日の目安に近くよう気をつけている。野菜を多く取れるような食事を心がけ食事量もチェックしている。毎日の運動やお腹のマッサージなども取り入れ薬の服用にも配慮している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれに合った湯温や、体調に合わせた入浴の仕方を取っている。入浴順はいつも同じではなくその日の気分を配慮して決めるようにしている。	基本的なスケジュールは設定しているが、その日の希望や体調、状況等に応じて、柔軟な対応に努めている。1対1のコミュニケーションを深める時間としても大切にし、希望する方には入浴剤も用いながら、ゆっくりとした入浴支援に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングのソファで過ごされることが多いが、体調の悪いときは居室のベッドで横になったり、ゴザを弾いてリビングで休まれることもある。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については間違えのないよう職員会議やミーティング時に変更などを伝えている。服薬時には声を出して職員と一緒に確認し飲んでいただく。薬の説明書は個人ファイルにといつでも確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意なことや興味のあることを発揮できるよう支援している。晩酌をする方には提供し、新聞を隅々まで読まれる方には読みやすいよう場所を提供したりして支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの道の駅へは季節の花々をみるために定期的に訪れている。そこで外食をしたりおやつを食べたり、ご家族にも来ていただいて一緒に楽しんだりしている。買い物好きな方には職員の買い出し時に一緒に出掛けている。	暑さ寒さを肌で感じられるよう、日常的な外出の機会を大切にしている。また、誕生月には個別支援として、希望を聴き取り、馴染みの場所や人との外出を行っている。地域行事に参加したり季節行事の企画、近隣の道の駅等、積極的な外出支援が行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診時には自分で支払いをしていただいたり、毎月決まった額をおろして小遣い帳に記入し、残高を考えながら買い物をしてもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からお祝いやお菓子などが届いたらお礼の電話を入れてもらっている。希望があれば自分で電話をかけてお話していただくこともある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り、職員や入居者さんの手作りのものを飾るようにしている。お花を生ける方には玄関のお花を生けていただくこともある	玄関ホールにはアートフラワー等、個別の作品が飾られていたり、居室の手作り表札や行事の写真等、日々の暮らしがうかがえる。天井が高く、開放的な明るい共用空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓のほかにそれぞれに一人掛けのソファがある。一人になりたければ居室に入ってくつろぐことができる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の持ち物は入居時に自宅から持ちこまれ、ご家族に任せている。思い思いにイスやソファ、仏壇などを持ってこれ自宅にいる感覚を持っていただく。	プライバシー空間としての意識を高めながら、使い慣れた家具や大切な品が持ち込まれ、動線の確保等にも配慮しながら、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は全体が見渡せるオープンな構造でどこに何があるかすぐ分かりやすくなっており、安全で快適な空間である。		